

ずん Zooっと平川



夜間開園を開催しました！

8月の毎週土曜日と14日(金)に夜間開園を開催しました。8月の日中はどうしても日射しが強く動物たちもお客様もぐったり…。しかし、この6日間は午後5時頃から夜行性の動物たちを中心にごそごそ動き出し、お客様もそそくそとご来園。キリンやコアラ、ゾウなどのお食事ライブを楽しんでいただきました。特に、フタコビナマケモノは夜行性というだけあって、お食事ライブにはたくさんの人ばかり！ナマケモノは期待に応じて地面を這って移動したり、エサをくわえたまま眠ってしまったり…。色々な姿に皆さんも大喜びでした。夜間開園では普段みることのできない動物たちの様子をご覧ください。来年の夜間開園も、どうぞ楽しみに!!



▲ゾウって鼻が器用だね！



▲エサをくわえたまま眠ってしまいました…



第42回サマースクールを開催しました！

夏休み^{しゅうきゅう}も終盤にさしかかった8月19日(水)と20日(木)に、小学校5、6年生を対象としたサマースクールを開催しました。動物とのふれあいを通じて動物のことを理解し、動物園の役割を知っていただくことを目的に、開園時より行っている人気のイベントです。

今年は合計93名の皆さんが飼育体験と、その後の班別学習に取り組みました。班別学習ではダチョウのエッグアートや動物看板、パネルを作製し、「人に伝える」ということを学習しました。限られた時間でしたが、友達同士協力しながら素敵な作製物ができあがったようです。今回のサマースクールで体験したことや学んだことを活かして、これからも動物園を楽しんでほしいと思います。



▲「調子はどう??」



▲やるのがたくさん!!
掃除にも力が入ります。



▲「動物についてたくさん調べたよ!!」



鹿児島市 平川動物公園

〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1
TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328
■開園時間:午前9時~午後5時(入園は午後4時30分まで)
■休園日:12月29日~1月1日
URL <http://hirakawazoo.jp/>
Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>

携帯サイトへ
アクセス!



編集・発行



〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号
TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690
URL <http://k-kouenkousya.jp>
Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

特集1

平川動物公園初登場！ ヤブイヌがやってきた

特集2

リニューアル施設紹介

平川動物公園初登場! ヤブイヌがやってきた!



愛くるしい姿と野性味あふれるヤブイヌについて紹介します!

ヤブイヌ
食肉目イヌ科
学名: *Speothos venaticus*
英名: Bush Dog
ブラジル、ペルー、コロンビアなどの南アメリカに広く分布し、森林や草原に生息します。水辺を好み、水中に潜ることができます。寿命は約10年で、10頭ほどの小さな群れをつくり、頻りに鳴き声を交わし合い、見通しの悪いやぶの中でも連絡を取り合うことで群れを維持していると考えられています。雑食性で、鳥や小動物、魚、果実などを食べています。現生のイヌ科の中で最も原始的な種で、1千万年前の姿を残していると言われます。



胴長短足は役に立つ!?

足が短く胴が長いスリムな体型は、深いやぶをかき分け、すり抜けるのに適しています。また、地面を掘った穴や岩の割れ目などの細くて狭い巣穴で暮らすのにも、この体型が役立ちます。

京都から来たウキョウ&サキョウです!

2015年5月27日に京都市動物園からヤブイヌの兄弟ウキョウ(右京)とサキョウ(左京)が来園しました。2頭は2014年6月11日に生まれ、現在は、元気いっぱいのやんちゃ盛りです。見た目も大きさもそっくりのため見分けが付きにくいですが、ウキョウはサキョウに比べて少し体重が重く、ふっくらしています。最近では2頭とも穴掘りに夢中で、掘られた穴を埋め戻す作業に苦労していますが、元気がある証拠だと思っています。

動物公園で与えているエサ



- 馬肉
- 鶏頭
- 鶏肉
- ヒヨコ など



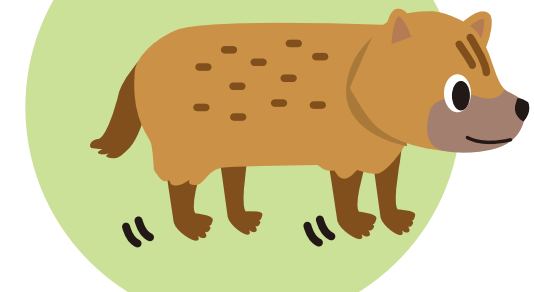
逆立ちできる

縄張りを示すために尿を出して、においをつけるマーキングをしますが、このときメスは逆立ちをして尿を出します。一方、オスは普通の犬と同じように片足を上げて行きます。ウキョウとサキョウはオスなので逆立ちを見ることはできませんが、今後、メスが来園して逆立ちでのマーキングが見られる日が来るかもしれません。



後ろ歩きの名人

後ろ歩きが得意で、細長い巣穴では体の向きを変えずに移動することができます。また、危険を察知したときは、背中を向けず後ろ走りて巣穴に逃げます。



指の間には水かきがある!!

川の中を泳いだり潜ったりすることができます。



タヌキ? アナグマ? ...いいえ、ヤブイヌです

国内の飼育頭数が少なく、なじみの薄いヤブイヌ。そのため、タヌキやアナグマなどに間違えられることがあります。そこで、3種を写真で見比べてみました。並べてみると顔の模様や体型など違いがはっきりわかります。ちなみにタヌキはイヌ科、アナグマはイタチ科です。



▲ホンドタヌキ



▲ニホンアナグマ

飼育員からひとこと

素朴でかわいらしい姿のヤブイヌ。しかも逆立ちをして尿をしたり、後ろ歩きが得意であったりとても個性的な動物です。国内で飼育している施設が少なく、九州で見ることができるのは平川動物公園だけです(平成27年7月現在)。小さな体に魅力いっぱいのヤブイヌをぜひ見に来てください。

担当者: 知屋城、秋元

特集2 リニューアル施設紹介

～チンパンジー展示場、オーストラリアの自然ゾーン～

この春、リニューアル事業の一環で新しいチンパンジー展示場とオーストラリアの自然ゾーンが完成しました。緑豊かで、広く、高く、見やすく生まれ変わった施設をご紹介します。



チンパンジー展示場



デッキ付きタワー

まず目に入るのは高くそびえたつタワーではないでしょうか。その高さは10メートルもあります。チンパンジーが暮らすアフリカの森には高さ数十メートルにもなる木があり、その高い空間で彼らは自由自在に動き回っています。一見、人工的に見えるタワーですが、間にはロープが張りめぐらしてあり、樹上での本来の行動を発揮できるように工夫しています。



ガラスビュー

間近で観察できるようになりました。顔の表情はもちろん、手足の形などもよく見えますよ。ガラスは声を通しにくいので、両サイドにはパンチングメタル(穴あきの金属板)を取り付けました。これで声や足音も聞こえて迫力倍増です。



給餌扉

ガラスビューの両サイドには鍵がかけてある扉が計4か所あります。これを開けると、ここからチンパンジーにエサを与えられるようになっていきます。(エサを与えるのは飼育員だけです)



人工アリ塚

野生のチンパンジーは道具を使って食べ物を食べることが知られています。その代表的なものの一つが「アリ釣り」です。シロアリの巣穴に木の枝などを差し込み、食らい付いたシロア리를釣り上げて食べるのです。動物園では毎日アリを捕まえてくることはできませんが、人工アリ塚の中にジュースやハチミツを入れておくと、差し込んだ棒をそれに浸してなめる様子が見られます。

▼寝室が向き合っています



快適な屋内施設

ロープを張りめぐらせた屋内展示場は、大雨や気温が低くて屋外に出られない時に過ごす場所です。ここでもガラス越しに間近でチンパンジーを観察できます。日ごろは見ることはできませんが、チンパンジー舎内には冷暖房付きの寝室が計6室あります。その一部には部屋が向かい合わせになっていて、お互いの姿が見られる「お見合い」用の部屋もあります。



豊富な植物

地面は芝に覆われており、加えてシマトネリコやソテツなど10種類の木を植えました。今後は木の生長とともに緑がさらに豊かになることが期待されます。これも森で暮らすチンパンジーの本来の暮らしに近づける工夫なのです。



解説サイン

ビューイングシェルター内にはイラスト入りの大きな解説サインがあります。「身体のひみつ」、「どんな所にすんでいるの?」など、項目ごとに詳しくチンパンジーについて学習することができます。園路には「足跡サイン」もあります。実際に歩く様子を観察しながら、手足を比べてみてくださいね。

飼育員からひとこと

私たちヒトに最も近い生き物であるチンパンジーは、豊かな表情や声など多彩な方法でコミュニケーションをとりながら、群れで暮らしています。これまではオスのラルゴとケイの2頭だけで暮らしてきましたが、7月には北九州市の到津の森公園からイチエとモモが新たに仲間入りしました。この2頭のメスを加えて新たな群れづくりがスタートしています。

今後はさらに頭数を増やすことを計画中です。

チンパンジーは森林開発や密猟などのために年々生息数が減少している「絶滅危惧種」です。動物園どうしが互いに協力して繁殖に取り組んでいます。今後は親子を含む幅広い年代のチンパンジーたちが暮らす「社会」を展示することを目指しています。ご期待ください!

担当者: 福守、森

オーストラリアの自然ゾーン

施設の特徴や
展示動物を
紹介します！



より身近で動物を観察できる！

～展示場の中に入ることができる
「ウォークスルー方式」～



ここではオオカンガルーとワラビーを展示しています。オオカンガルーは近くに寄って来ることがありますが、ワラビーは警戒心が強いので離れていることが多いです。驚かさないように見てください。カンガルーとワラビーの違いは体の大きさだけで、同じカンガルーの仲間です。小さい種からワラビー、ワラルー、そしてカンガルーと分けられます。

ここではオオカンガルーとワラビーを展示しています。オオカンガルーは近くに寄って来ることがありますが、ワラビーは警戒心が強いので離れていることが多いです。驚かさないように見てください。カンガルーとワラビーの違いは体の大きさだけで、同じカンガルーの仲間です。小さい種からワラビー、ワラルー、そしてカンガルーと分けられます。

カンガルーの仲間は有袋類というグループに属し、有胎盤類(他の哺乳類)とは違い、胎盤を持たず子宮で子どもを長く育てることができません。そのため、未熟な状態で生まれた子どもを、育児のうとよばれる腹部にある袋で育てます。子どもは生まれてから自分の力で母親の袋に向かいます。袋の中には乳頭があり、そこから母乳を吸って育ちます。



オオカンガルー

草原や森林等に生息しています。明け方や夕方に活動をするため日中や夜は休んでいることが多いです。ジャンプをしながら時速約60kmで移動することができます。



ベネットアカクビワラビー

アカクビと名前がつく通り、首と肩が少し赤く見えます。体は小さいですが、全身筋肉のかたまりのようで、その力強さに飼育員もびっくりです！



オスの闘争の様子

アカカンガルーをより自然な環境で展示

アカカンガルー

カンガルーの仲間では一番体が大きくなり、立ち上がると2m近くにもなります。オスは赤茶色で、メスは青みがかった灰色をしています。オスは胸部から分泌される赤い液体により、体毛が赤茶色に染まるためアカカンガルーと名づけられました。オス同士は太い尾を支えにしてバランスをとり、前脚でひっかき、後脚でキックをして闘争をします。

オーストラリアの大地で暮らす動物たちの混合展示



ここではエミュー、コクチョウ、アカカンガルーの3種類を混合展示しています。



3種はケンカをすることなく生活しています。



エミュー

草原や砂地などに生息します。エミューはダチョウと同様に飛べない鳥です。代わりに足が発達し、時速約50kmで走ることができます。雑食性で主に草、果実、昆虫などを食べます。メスは「ボンッ！ボンッ！」と太鼓を叩いたような鳴き声です。



コクチョウ

オーストラリアの水辺に生息します。季節や環境の変化に合わせてオーストラリア内を移動します。体全体が真っ黒ですが風切羽(外側の大きな羽)が白く、クチバシが真っ赤です。草食性で主に水草を食べますが、水辺の近くや陸上で草を食べることもあります。

飼育員からひとこと

今まで柵越しでしか見ることができなかったカンガルーたちを、より間近で見ることができます。運が良いとオオカンガルーが近くに来るかもしれません。また、混合展示をしているため、それぞれの関係や体の特徴を比較することができます。緑が多く広い展示場でのびのびと暮らしている動物たちをぜひ見に来てください!!

担当者: 鈴木、寺原、松元、落合

むぜもんじや

むぜもんじや: 鹿児島弁でかわいいねの意味

コツメカワウソ(オス2頭)

2015年3月2日生まれ



こんな動物

食肉目イタチ科
分布: 東南アジア、
インド、ネパールなど
主食: カエルやカニなど
の小動物、小魚など

うまれたときは白い!

生まれた時は体が白く、まだ眼も開いていません。動くこともままならず、母親の母乳で成長していきます。



▼生後約2カ月、家族が赤ちゃんをくりて移動します。やさしくくりているからケガはしませんよ

▼生後3カ月で展示場へデビュー!
左: ヒジリ、右: キトラ



眼が開いて、 歯もはえてきた!

この頃になると、よちよちですが少しは歩けるようになります。母乳もまだ飲んでいますが、小魚を食べる練習をします。家族みんなで赤ちゃんのお世話をします。

展示場へデビュー! そして名前が決定!

両親やお姉ちゃんの動きにようやくついて行くことができ、大好物の魚もべろりと平らげるようになりました。日に日に成長し、カワウソらしいかんろうも出てきました。ちょっとやんちゃなキトラ、控えめなヒジリを今後も宜しくお願いします!

担当者: 落合、寺原

コアラ(2頭)

オス: 2014年11月22日生まれ メス: 2015年1月2日生まれ

こんな動物

カンガルー目コアラ科
分布: オーストラリア東部
主食: ユーカリ

コアラは、カンガルーと同じ有袋類という動物の仲間で、母親のお腹にある育児のう(袋の中)で赤ちゃんを育てます。今年の6月から7月にかけて、2頭の赤ちゃんコアラがお母さんの袋から全身を出すようになりました。初めて見る外の世界におっかなびっくりで、まだまだお母さんにべったりの赤ちゃんたちですが、少しずついろいろなことに興味を持ち始めた様子。順調に成長している2頭を応援してくださいね。



2014年11月22日生まれの男の子

父親: フランク 母親: ココロ

マイペースな母親の動きに合わせて必死にしがみつく様子がとっても健気。ユーカリにも少しずつ興味が出てきました。



2015年1月2日生まれの女の子

父親: フランク 母親: ブランディ

ちょっとした物音ですぐに袋の中に隠れてしまう甘えん坊。袋から顔だけ出してスヤスヤと眠る様子がとってもキュート。母親にまだまだ甘えん坊で、赤ちゃんならではのかわいらしさが見どころです。

担当者: 永楽、菊村

イベント実施報告

奄美大島から リュウキュウ コノハズクが やってきた!

平成27年4月に奄美大島で保護されたリュウキュウコノハズクが来園しました。保護の経緯や動物園の野生動物保護の役割について紹介します。



こんな動物

小型のフクロウの仲間で、南西諸島に生息しています。奄美大島が分布の北限にあたり、夜間に森の近くで「コホッ！コホッ！」と咳き込んだような鳴き声を聞くことができます。

大きな眼と耳のように見える羽が特徴です

2羽のリュウキュウコノハズクは、それぞれケガを負っているところを保護されました。1羽は翼の骨折、もう一羽は眼の損傷でした。奄美市にある奄美動物病院でケガを治療し、順調に回復してきました。しかしながら、飛ぶ能力や眼の機能が完全に回復せず、今後の野生下での生存が難しいため、平川動物公園で飼育展示することとなりました。



小動物や昆虫を喰いちぎるため、
嘴と爪は鋭いです



野生下では飛べないと外敵に襲われ、眼が見えないと獲物を捕まえることができません。しかし動物公園では、飼育員や獣医師ができる限り通常の生活ができるようにサポートします。ケガはしていますが、うまくいけば長生きでき、繁殖の可能性もあります。

多少、体が不自由でも展示場に
すっかり溶け込んでいます

動物園には、傷ついた野生生物を保護する役割もあります。当然、野生復帰を目指した治療やトレーニングを行いますが、復帰困難な場合には終生飼育することもあります。ケガをしてかわいそうと思われるだけでなく、生き物の姿や生態について、生息環境やケガの原因などを含めて紹介することも動物園の大切な役割です。体重100g程度の、とても小さなフクロウの仲間ですが、奄美大島の自然豊かな環境や、個性豊かな動物たちについて代弁してくれる大切な存在となってくれることでしょう。



青少年のための科学の祭典2015に参加しました!

7月25日(土)に鹿児島市立科学館で開催された「青少年のための科学の祭典2015」に今年も参加してきました。「鳥の羽☆ふしぎ発見」と題し、動物園で飼育している様々な鳥の羽を用いて実験を行いながら羽のつくりや水をはじく仕組みを調べ、最後に鳥の羽の標本カードを作って完成です。今年は、当日のために作製したタンチョウの翼の標本も登場し、こんなにたくさんの羽があるとは!!と驚いた方も多かったようでした。



▲実験に興味津々です!



▲翼っているんな羽で構成されているんですよ!

科学の祭典は、青少年の科学技術離れを防ぐために全国規模で行われている体験型イベントで、毎年学校の先生や学生、各研究機関がブースを出展し、様々な実験を通して科学の面白さをお伝えしています。動物園では、今後も動物の「ふしぎ」をどんどんお伝えしていこうと思います。

今年もテングナイトを開催しました!

7月19日(土)に毎年恒例のテングナイトを開催しました。テングナイトとは、障がいのある子ども達とその家族を動物園に招待し、気兼ねなく楽しいひとときを過ごしてもらう国際的なイベントである「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」の趣旨に賛同しているもので、今回で5回目の開催です。当日は生憎の雨模様でしたが、410名の皆さんが来園され、間近でみるキリンの食事風景や、かわいらしいコアラの親子に大喜びの様子でした。来園者やボランティアの皆さんのたくさんの笑顔で、いつの間にか雨も止んでいた、そんな素敵な夜でした。



▲キリンが目の前にきて大興奮!



▲ホワイティたちもお見送り。また来てね!